

横浜市感染症発生動向調査報告 10月

《今月のトピックス》

- 風しんの報告数が多い状態が続いており、今後の推移に注意が必要と考えられます。
- 伝染性紅斑の報告数が多い状態が続いています。
- 百日咳の報告が40件ありました。

◇ 全数把握の対象

〈10月期に報告された全数把握疾患〉

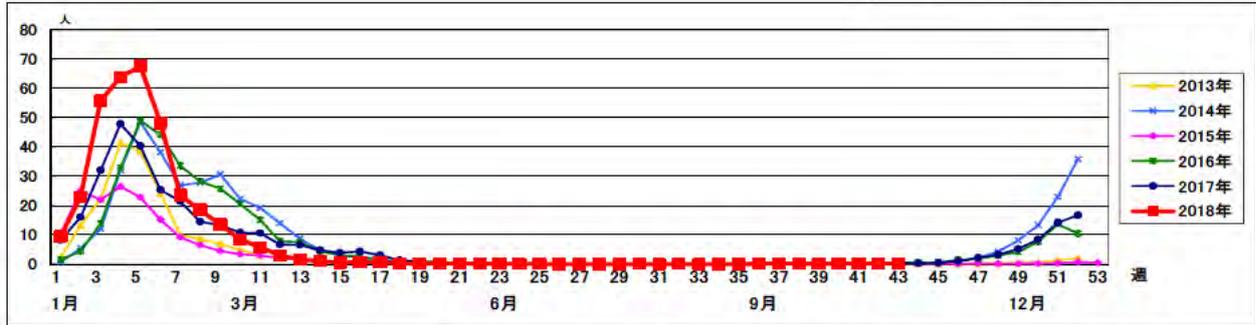
腸管出血性大腸菌感染症	17件	急性脳炎	1件
腸チフス	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	2件
E型肝炎	1件	ジアルジア症	1件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
デング熱	1件	水痘(入院例に限る)	2件
レジオネラ症	8件	梅毒	10件
レプトスピラ症	1件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件
アメーバ赤痢	4件	百日咳	40件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	15件	風しん	53件
急性弛緩性麻痺	1件	—	—

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が12件(うち2件が無症状病原体保有者)、O26の報告が4件(うち2件が無症状病原体保有者)、O121の報告が1件ありました。
- 腸チフス: インドでの経口感染と推定される報告が1件ありました。
- E型肝炎: 経口感染と推定される報告が1件ありました。
- A型肝炎: 感染経路等不明の報告が1件ありました。
- デング熱: ベトナムでの蚊からの感染と推定される報告が1件ありました。
- レジオネラ症: 肺炎型の報告が8件あり、感染経路不明です。
- レプトスピラ症: 水系感染と推定される報告が1件ありました。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が4件あり、2件は同性間の性的接触、1件は経口感染、1件は感染経路等不明でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 15件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性弛緩性麻痺: ポリオ含有ワクチン接種4回ありの幼児の報告が1件ありました。
- 急性脳炎: 小児の報告が1件あり、病原体不明でした。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者の男性の報告が2件あり、いずれも国内での性的接触で、同性間が1件、異性間が1件でした。
- ジアルジア症: 1件の報告があり、感染経路等不明です。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 60歳代の報告が2件(いずれもワクチン接種なし)、80歳以上の報告が2件(ワクチン接種あり1件、不明1件)ありました。
- 水痘(入院例に限る): 20歳代の報告が2件(ワクチン接種あり1件、不明1件)ありました。
- 梅毒: 10件の報告(無症状病原体保有者2件、早期顕症梅毒Ⅰ期6件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件)がありました。感染地域はいずれも国内で、感染経路は異性間の性的接触が9件、詳細不明の性的接触が1件です。男性9件、女性1件でした。
- バンコマイシン耐性腸球菌感染症: 60歳代の報告が1件あり、感染経路等不明でした。
- 百日咳: 10歳未満では乳児が5件(ワクチン接種あり2件、なし3件、)、小児で18件(ワクチン接種あり16件、不明2件)の報告があり、10歳代で11件(ワクチン接種あり9件、不明2件)、30~40歳代で2件(ワクチン接種不明)、50歳代2件(ワクチン接種不明)、60歳以上2件(ワクチン接種なし1件、不明1件)の報告がありました。
- 風しん: 検査診断例50件、臨床診断例3件が報告されています。10歳代1件(ワクチン接種なし)、20歳代13件(ワクチン接種あり1件、なし5件、不明7件)、30歳代11件(ワクチン接種あり、1件、なし1件、不明9件)、40歳代18件(ワクチン接種なし4件、不明14件)、50歳代8件(ワクチン接種なし3件、不明5件)、60歳代2件(ワクチン接種なし1件、不明1件)でした。男性46件、女性7件でした。

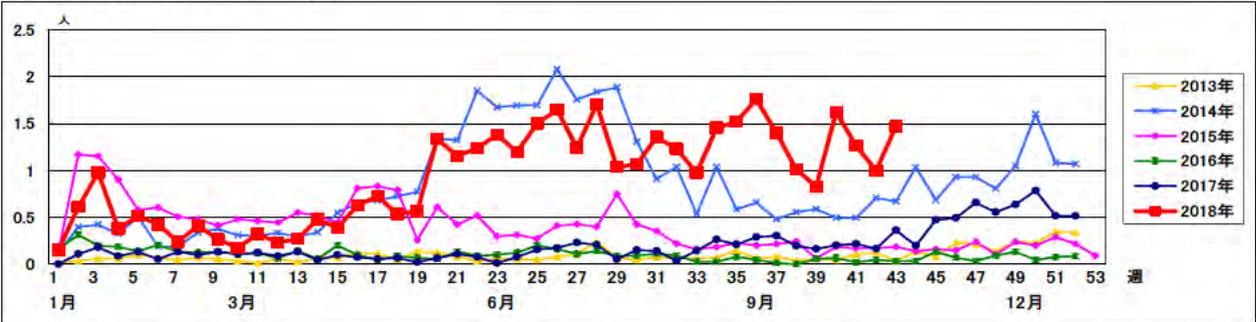
◇ 定点把握の対象

1 インフルエンザ：流行開始の目安となる定点あたり1.0は超えていませんが、定点あたり0.1～0.3で推移し、第43週は0.18でした。市内の学校における集団発生は第36週にて報告されています。

報告週対応表	
第39週	9月24日～9月30日
第40週	10月1日～10月7日
第41週	10月8日～10月14日
第42週	10月15日～10月21日
第43週	10月22日～10月28日



2 伝染性紅斑：2017年第45週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。第43週では定点あたり1.47となっています。



3 性感染症(9月)

性器クラミジア感染症	男性:27件	女性:27件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:10件	女性:14件
尖圭コンジローマ	男性:4件	女性:1件	淋菌感染症	男性:16件	女性:1件

4 基幹定点週報:

	第39週	第40週	第41週	第42週	第43週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.67
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(9月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	—	—

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

10月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点32件、内科定点8件、基幹定点4件、眼科定点2件で、定点外医療機関からは6件でした。

11月7日現在、表に示した各種ウイルスの分離株9例と遺伝子14例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(10月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	手 足 口 病	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	そ の 他
インフルエンザ AH1pdm09 型	1						
インフルエンザ AH3N2 型	1		3				
アデノ 41 型					1		
ヘルペス 1 型							1
パラインフルエンザ 1 型	1						
ライノ	3	2					
コクサッキー A2 型	1	2					
コクサッキー A4 型	1						1
コクサッキー A16 型				1			
コクサッキー B4 型						1	
エンテロ 71 型				1			
エコー 11 型	2						
合計	2 8	4	3	2	1	1	1 1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

「菌株同定」の主な依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌3件、サルモネラ菌2件などとなり、非定点からの依頼では、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌6件、結核性抗酸菌3件ありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌22件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌15件などとなっています。

「分離同定」の依頼は、基幹定点からボレリア、紅斑熱群・ツツガムシ2件、レジオネラ属菌1件ありました。

「小児科サーベイランス」では、A群溶血性レンサ球菌3件の依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(10月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等
基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	3	<i>Enterobacter cloacae</i> (1)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Escherichia coli</i> (1)
	腸管出血性大腸菌	1	O121:H19 VT2(1)
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	1	ES(-)、EXT(-)、TSST(-)、PVL(+)
	サルモネラ菌	2	<i>Salmonella</i> O4:i:-、 <i>Salmonella</i> Typhi
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	6	<i>Enterobacter cloacae</i> (3)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Enterobacter aerogenes</i> (2)
	<i>E. albertii</i> との鑑別	1	<i>Hafnia alvei</i>
非定点	腸管出血性大腸菌	1	O18:VT(-)
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	1	ES(-)、EXTA(+)、TSST(-)、PVL(+)
保健所	非結核性抗酸菌	3	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i> (1) <i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscessus</i> (2)
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	15	<i>Enterobacter aerogenes</i> (8)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (3)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (2)、 <i>Morganella morganii</i> (1)、 <i>Cedecea davisae</i> (1)
	腸管出血性大腸菌	22	O157:H7 VT1VT2(4)、O157:H7 VT2(9)、O157:H- VT2(1)、O145:H- VT2(2)、O26:H11 VT1(2)、O168:VT2(1)、O8: VT1VT2(1)、O型別不能VT2(2)
	バンコマイシン耐性腸球菌	1	<i>Enterococcus faecium vanB</i> 保有
	レジオネラ菌	1	<i>Legionella pneumophila</i> 1群

分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等
医療機関 基幹定点	ボレリア、リケッチア	血清	1	PCR(ボレリア、リケッチア)不検出 抗体(IgG-、IgM 判定保留)
		水泡内容物	1	PCR(ボレリア、リケッチア)不検出
	真菌	全血(スメア)	1	<i>Malassezia restricta</i>
保健所	レジオネラ菌	喀痰	7	<i>Legionella pneumophila</i> 1群(培養法 3)、 不検出(4)

小児科サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	3	A群 T4(1)、A群型別不能(1)、不検出(1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】